

給料、休日、希望の新3Kへ

吉光組代表取締役社長 吉光 岳文氏

Ishikawa  
かがやき人  
2018



3年以内に休日数110日以上  
スキルアップの支援も充実

「若者は、やり甲斐を持って仕事に取り組む反面、プライベートルームな時間への思いも強い」と話すのは吉光組の吉光岳文代表取締役社長。46歳。同社の年間休日数は97日で「私が入社した年からずっと変わっていない」と苦笑する。この休日数をまずは105日以上を増やし、3年以内に110日以上にしていく方針で現在、社

会保険労務士と相談している。社員のスキルアップへの支援も欠かさない。国家資格の必要性を明確にし、取得時期などを設定。国家資格だけでなく、現場に必要な安全研修や技術研修を若手、中堅を対象に強化し、フォローアップを充実させる。取得後は月給に資格手当でも付く。「若者の働く環境や賃金アップ、いかにやり甲斐を持って取り組んでもらえるか。目標を定める程度見える化して導いてあげる必要がある。でも最終的には常に膝を突き合わせての毎日の声掛けが必要」と直接的なコミュニケーションを重要視する。担い手育成が課題の建設業。同社の平均年齢は43歳で業界では若い方だが、建設業への入職者が年々減る中、若者にとっての魅力アップは不可欠だ。「若者が離職しないよう、これまでのきつい、汚い、危険を新3K(給料、休日、希望)に変えていかないといけない」。